

権現さん前に 全員集合！

「堂園の人たちは昔から、互いに支え合いながら暮らしてきました。みんな親戚のようなもので、小学生までの子どもが十数人ほどおり、どの子も地区の皆さんにかわいがられ

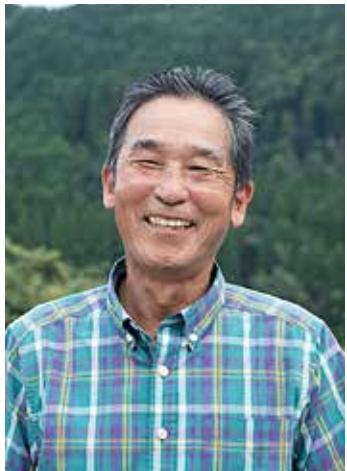


春植えの苗を今から育てている新村さんたち

と立ち止まる人もいらして、草取りをしていると声を掛けてくださるんです」と弥生さんはうれしそうです。ベランダには春に植え込む花の苗づくりが始まっていました。

新村さん夫婦はよく植物園に出かけるそうで、植物好きの二人の共通の趣味でもあるようです。仲の良い夫婦が育てる花壇の花は、地区の人たちの癒やしとなっています。

堂園の魅力を教えてくれた区長の中川恭一さん



て育っています」と話すのは区長の中川恭一さん(64)です。

訪れた日は、地区の花火大会が予定されていました。「堂園のまちづくり協議会の企画で、子どもたちに楽しい思い出をつくってもらおうというものです」と中川さんが見守ります。

花火大会前の夕刻、子どもたちが親御さんに連れられて公民館広場に集まりました。トンボを追いかけたり、追いかけっこをしたりと元気いっぱい。パパやママたちも一緒になつて遊び、誰が親子なのか分からないほどみんな仲良しです。その夜、堂園池から打ち上げられる花火を皆さんで楽しみました。花火大会を見守ったのは地区の消防団。こうした地域の温かい支え合いが、堂園には根強く残っています。

堂園の守り神「権現さん」の前に子どもたちが勢ぞろいすると、愛情いっぱいに注がれた笑顔の花が咲きました。

散步の終わりに

布田川沿いを走る県道熊本高森線が通じる前は、堂園地区を通って西原村へと抜けていました。今は住民と定期便のバスが通るだけですが、この土地を受け継ぐ若い世代のパワーを感じます。北側の高台から南へと、段々に見守るように立ち並ぶ家々。堂園池の周りに育つ稲穂がこうべを垂れて、もうすぐ本格的な秋が訪れます。

この日の出会いに感謝。



堂園に暮らす若い世代のパパやママ、そして元気な子どもたち

